

3版化学の新標準演習 正誤表 1刷用

	ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）	訂正日
本冊	62	92（2）	1行目	〈末尾に追加〉	（NaHCO ₃ の式量：84）	2023/12/28
本冊	89	123	2行目	ヨウ素ヨウ化カリウム水溶液	ヨウ化カリウム水溶液	2024/12/5
本冊	116	例題54	---	〈問題，考え方変更〉	〈図版リスト：2に差し替え〉	2024/12/5
本冊	116	例題54（2）	---	25℃，4.0×10 ⁵ Pa	25℃，1.0×10 ⁶ Pa	2025/3/27
本冊	126	180	1～3行目	グルコース C ₆ H ₁₂ O ₆ 360mg を含む1.0L の水溶液の浸透圧を，27℃で右図のような装置を用いて測定した。	半透膜を取り付けたろうと管にグルコース C ₆ H ₁₂ O ₆ 72mg を含む0.20L の水溶液を水面と同じ高さまで入れて放置したら，27℃で <i>h</i> cm の液面差が生じて平衡状態となった（右図）。	2025/9/1
本冊	133	□4①	図	〈二酸化ケイ素の結晶中〉 C	O	2024/5/2
本冊	143	例題63 考え方（1）	1・4行目	〈反応式の右边〉 H ₂ O	2H ₂ O	2024/4/14
本冊	155	210（3）	1行目	放電により2.0molの電子が	放電により1.0molの電子が	2023/5/22
本冊	156	214	図	「充電時」と「放電時」	〈位置を入れ替える〉	2025/3/19
本冊	164	□2	図	反応熱	反応エンタルピー	2024/5/21
本冊	164	□2③	---	それ自身は変化せず，反応速度を大きくする物質。反応熱は変化しない。	自身は変化せず，反応速度を大きくする物質。反応エンタルピーは一定。	2024/5/20
本冊	165	□2（3） 解答	---	反応熱	反応エンタルピー	2024/5/20
本冊	167	例題76 問題	---	反応熱〈2か所〉	反応エンタルピー	2024/5/20
本冊	167	例題76 考え方（1）②	---	〈全文差し替え〉	（反応エンタルピー Δ <i>H</i> ）＝（生成物のエンタルピーの和）－（反応物のエンタルピーの和）で求める。Δ <i>H</i> ＝0－9＝－9〔kJ〕（発熱反応である。）	2024/5/20
本冊	167	例題76 考え方（2）⑤	---	反応物と生成物のエネルギーは同じで，反応熱	反応エンタルピー	2024/5/20
本冊	167	例題76 解答 ②・⑤	---	9	－9	2024/5/20
本冊	169	225（2）・（8）	---	反応熱	反応エンタルピー	2024/5/20
本冊	183	□2（3） 解答	---	[H ₂ O]は定数とみなして <i>K</i> に含める	[H ₂ O]は一定とみなして <i>K</i> の式には含めない	2025/9/1

	ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）	訂正日
本冊	193	□3②（e）	---	溶解熱が大～水に加えて希釈する。	溶解時の発熱量が大 水に少量ずつ加えて希釈する。	2024/12/5
本冊	194	□5（5）	---	濃硫酸は⑤□熱が大きく、	濃硫酸は溶解時の⑤□量が大きく、	2024/12/5
本冊	194	□5（5） 解答	---	溶解	発熱	2024/12/5
本冊	199	269（6）	---	濃硫酸を水で希釈すると、液温が上昇した。	濃硫酸を希釈するときは、水に少量ずつ加えて薄める。	2024/12/5
本冊	233	306	3行目	Fe^{3+}	Fe^{2+}	2025/9/1
本冊	249	□4③	2-メチル-1-ブテンの構造式	CH_3	CH_2	2024/9/24
本冊	256	□1③（c）	反応式	$-\text{H}_2\text{O}$	$-\text{H}_2\text{O}$ 〈2か所〉	2024/5/21
本冊	264	□2①	反応式	〈右向きの矢印の上に追加〉	エステル化	2024/6/19
本冊	264	□2①	反応式	〈左向きの矢印の下に追加〉	加水分解	2024/6/19
本冊	279	357（3）	1行目	生成する有機化合物の	生成する芳香族化合物の	2024/6/19
本冊	300	380	2行目	結成	形成	2024/5/21
本冊	321	例題149	タイトル	共重合体の構成	共重合体の組成	2025/9/29
本冊	321	例題149 考え方（2）	8行目	$x \div 34 \text{ [g]}, y \div 11 \text{ [g]}$	$x \div 33.9 \text{ [g]}, y \div 11.1 \text{ [g]}$	2025/9/29
本冊	321	例題149 考え方（2）	9行目	$11/15 \times 100 \div 73 \text{ [g]}$	$11.1/15 \times 100 \div 74 \text{ [g]}$	2025/9/29
本冊	321	例題149 解答（2）	---	73%	74%	2025/9/29
別冊解答	50	110 解説（2）（i）	3行目	HSO_4^{2-}	HSO_4^{-}	2024/8/19
別冊解答	79	167 解説（3）	4行目	$= 1.0 \times 10^5 \times (3 / (3+2)) = 0.60$	$= 3.0 \times 10^5 \times (2 / (2+1)) = 0.20$	2023/5/8
別冊解答	79	167 解説（3）	5行目	$= 1.0 \times 10^5 \times (2 / (3+2)) = 0.40$	$= 3.0 \times 10^5 \times (1 / (2+1)) = 0.10$	2023/5/8
別冊解答	79	167 解説（3）	11行目 〈式の分子〉	$0.60 \times 10^5, 0.40 \times 10^5$	$2.0 \times 10^5, 1.0 \times 10^5$	2023/5/8
別冊解答	86	180 解説（1）	7行目	$360\text{mg} = 0.360\text{g}$	$72\text{mg} = 0.072\text{g}$	2025/9/1
別冊解答	94	192 解説（4）	2行目	炭素ケイ素	炭化ケイ素	2024/12/5
別冊解答	97	196	16行目	$0.500 \times 56.0 = 28.0 \text{ [kJ]}$	$0.500 \times 56.5 = 28.25 \div 28.3 \text{ [kJ]}$	2023/5/22
別冊解答	102	205 解説	下から3行目	0.945 [J]	0.945 [kJ]	2024/12/5
別冊解答	108	214 解答（3）	---	リチウム電池の	リチウムイオン電池の	2024/12/5

	ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）	訂正日
別冊解答	115	223 解説	図	反応熱	反応エンタルピー	2024/5/20
別冊解答	116	225 解説（2）	---	反応熱〈2か所〉	反応エンタルピー	2024/5/20
別冊解答	116	225 解説（8）	9～10行目	差が反応熱であるから，反応熱の値は	差が反応エンタルピーであるから，その値は	2024/5/20
別冊解答	117	227 参考〈後者〉	図	反応熱 9kJ/mol	反応エンタルピー -9kJ/mol	2024/5/20
別冊解答	120	231 参考〈前者〉	---	反応熱〈5か所〉	反応エンタルピー	2024/5/20
別冊解答	128	248 参考	---	〈変更〉	〈図版リスト：3に差し替え〉	2024/12/5
別冊解答	134	255 解説（5）	5行目	混合溶液40mL	混合溶液50mL	2023/10/11
別冊解答	134	255 解説（5）	7行目	〈左辺の分母，右辺の式と単位を訂正〉	0.050, 2.0×10^{-2} [mol/L]	2023/10/11
別冊解答	134	255 解説（5）	9行目	〈右辺の式を修正〉	2.0×10^{-2} [mol/L]	2023/10/11
別冊解答	134	255 解説（5）	10行目	〈右辺の()内を修正〉	2×10^{-2}	2023/10/11
別冊解答	134	255 解説（5）	11行目	〈右辺の式を修正〉	$2 - \log 10 = 1.7$	2023/10/11
別冊解答	134	255 解説（5）	13行目	pH = $14 - 1.6 = 12.4$	pH = $14 - 1.7 = 12.3$	2023/10/11
別冊解答	134	255 解答（5）	---	12.4	12.3	2023/10/11
別冊解答	135	256 解説（2）	5～8行目	滴定前の $[\text{Cl}^{-}]$ は 1.0×10^{-2} mol/Lであったが，滴定後には $[\text{Cl}^{-}]$ は 2.0×10^{-6} になったから， $[\text{Cl}^{-}]$ は滴定前に比べて， $(2.0 \times 10^{-6}) / (1.0 \times 10^{-2} \times 100) = 2.0 \times 10^{-4}$ すなわち0.02%に減少している。	滴定前の Cl^{-} は $1.0 \times 10^{-2} \times 0.020 = 2.0 \times 10^{-4}$ mol 滴定後の Cl^{-} は $2.0 \times 10^{-6} \times 0.025 = 5.0 \times 10^{-8}$ mol すなわち， $(5.0 \times 10^{-8}) / (2.0 \times 10^{-4} \times 100) = 0.025\%$ に減少している。	2025/9/1
別冊解答	139	262 解説（4）（エ）	反応式	$2\text{H}_2\text{O}$	H_2O	2024/11/11
別冊解答	147	276 解説（1）（3）	18行目	[82]（6）参照	[75]（6）参照	2024/5/27
別冊解答	151	281 解答	---	⑫乾燥剤（吸着剤）	〈削除〉	2024/5/27
別冊解答	155	289 解説⑤	3行目	〈反応式左辺〉 H_2O	$2\text{H}_2\text{O}$	2024/6/11
別冊解答	161	297 解説（1）（a）	9行目	2NO	2NO_2	2024/10/29
別冊解答	165	303 参考	1行目	（シス・トランス異性体）	〈削除〉	2025/9/1
別冊解答	165	303 参考	図	シス・トランス，⇄	〈削除〉	2025/9/1

ページ	問題番号など	訂正行	訂正前（誤）	訂正後（正）	訂正日	
別冊解答	166	305 参考	7～10行目	弱い酸性側に変色域をもつメチルレッドを使用 する必要がある。また、メチルレッドは酸性側 が赤色、塩基性側が黄色である。中和滴定で は、	酸性側に変色域をもつメチルオレンジ、またはメ チルレッド（酸性側が赤色、塩基性側が黄色）を 使用する。本問では、	2025/9/1
別冊解答	181	331 解説（2）	構造式	〈構造式の番号〉	〈(ii) と (iii) を入れ替える〉	2024/7/8
別冊解答	182	332 参考	2～4行目	二重結合の位置は二重結合を含む最長の炭素骨 格の端からつけた番号で示す。	二重結合の位置は最長の炭素骨格の端からつけた 位置番号で示す。	2025/9/1
別冊解答	183	333	構造式の番号	(iv)	(iv)'	2025/12/17
別冊解答	191	341 解説（1）④	構造式	C-C-C-CHO	C-C-C-C-CHO	2025/3/27
別冊解答	194	345 解説（3）	1行目	反応熱	反応エンタルピー	2024/5/20
別冊解答	207	358 解説（1）左段(viii)	---	〈構造式〉	〈○のついていない価標を削除〉	2024/5/21
別冊解答	210	361 解答（1）C	---	〈構造式〉	〈-OHの下に追加〉 -COONa	2024/6/19
別冊解答	213	365 解説（4）（ウ）	---	〈「弱い酸性」の上の構造式〉 C-CH	C-OH	2025/2/4
別冊解答	247	415 解説（4）	10行目	〈反応式〉	〈先頭（フェノールの構造式の前）に追加〉 <i>n</i>	2026/1/8
別冊解答	251	420 解答	---	(1) ウ (2) カ (3) イ (4) ア (5) エ (6) ク (7) オ (8) キ (9) コ (10) ケ	(1) ウ (2) キ (3) イ (4) ア (5) オ (6) ケ (7) カ (8) ク (9) エ (10) コ	2024/5/2
別冊解答	256	429 解説（4）（d）	---	〈構造式〉	〈酸素Oとカルボニル基のC＝Oの位置を逆にす る：2か所（(b)と同様の位置になる）〉	2025/10/1

<>/>で囲まれた部分は以下のような文字です

下線 <u>□ </u>

イタリック <i>□ </i>

太字 □

上付き [□]

下付き _□

お使いの刷数によっては、修正済みのものも含まれています。（正誤表をご覧ください。）

1：前見返し	<div><div></div>非金属元素</div> <div><div></div>典型金属元素</div> <div><div></div>遷移元素 (遷移元素以外は 典型元素)</div>
2：本冊 p. 116例題54	<div><div>例題 54 気体の溶解度</div><div>酸素は 25℃, $1.0 \times 10^5 \text{ Pa}$ で, 1.0L の水に $1.25 \times 10^{-3} \text{ mol}$ 溶ける。 (1) 25℃, $4.0 \times 10^5 \text{ Pa}$ で, 水 1.0L に溶ける酸素は何 g か。(分子量: $\text{O}_2 = 32$) (2) 25℃, $4.0 \times 10^6 \text{ Pa}$ で, 水 1.0L に溶ける酸素は, 0℃, $1.0 \times 10^5 \text{ Pa}$ では何 L か。</div><div><div>考え方</div><div>ヘンリーの法則の 2 通りの表現方法。 ① 溶解する気体の物質量は, 圧力に比例する。 ② 溶解する気体の体積は, 溶解した圧力の下では, 圧力に関係なく一定である。 (1) 気体の溶解度(物質量)は圧力に比例する。 25℃, $4.0 \times 10^5 \text{ Pa}$ での O_2 の溶解量は, $1.25 \times 10^{-3} \text{ mol} \times \frac{4.0 \times 10^5}{1.0 \times 10^5} = 5.0 \times 10^{-3} [\text{mol}]$ 分子量 $\text{O}_2 = 32$ より, モル質量は 32 g/mol。</div><div>この条件で溶ける O_2 の質量は, $5.0 \times 10^{-3} \text{ mol} \times 32 \text{ g/mol} = 0.16 [\text{g}]$ (2) 25℃, $1.0 \times 10^6 \text{ Pa}$ での O_2 の溶解量は, $1.25 \times 10^{-3} \text{ mol} \times \frac{1.0 \times 10^6}{1.0 \times 10^5} = 1.25 \times 10^{-2} [\text{mol}]$ 気体のモル体積は標準状態で 22.4 L/mol。 0℃, $1.0 \times 10^5 \text{ Pa}$ で溶ける O_2 の体積は, $1.25 \times 10^{-2} \text{ mol} \times 22.4 \text{ L/mol} = 0.28 [\text{L}]$ 解答 (1) 0.16g (2) 0.28L</div></div></div>
3：別冊解答 p. 128248 参考	<div><div>参考</div><div>アンモニアの電離定数 K_b について, $\text{NH}_3 + \text{H}_2\text{O} \rightleftharpoons \text{NH}_4^+ + \text{OH}^-$ の電離平衡においては, $[\text{H}_2\text{O}]$ は $[\text{NH}_3]$, $[\text{NH}_4^+]$, $[\text{OH}^-]$ に比べて多量にあり, かつ, NH_3 の電離によって消費される量は極めて少量なので, 常に一定とみなせる。 したがって $[\text{H}_2\text{O}]$ は平衡定数の式には含まず, NH_3 の電離定数 K_b は次式で表せる。 $K_b = \frac{[\text{NH}_4^+][\text{OH}^-]}{[\text{NH}_3]}$ 一般に, 溶解時の水の濃度 $[\text{H}_2\text{O}]$ は常に一定とみなして, 平衡定数の式には含まない。</div></div>
4：別冊解答 p. 232390 参考〈後者〉	<div><div>参考</div><div>メチオニンの硫黄反応について システインの $-\text{SH}$ は NaOH 水溶液と加熱すると HS^- として脱離し, PbS を生成する。一方, メチオニンの $-\text{SCH}_3$ は NaOH 水溶液と加熱しても CH_3S^- として脱離しないので, PbS は生成しない。(ただし, NaOH の融解液との反応では S^{2-} を脱離し, PbS を生成する。)</div></div>